

私たちの意見で より住みよいまちづくりを！！

—北上市に私たち中学生の意見を届けよう—

日 時 令和 2 年 2 月 20 日（木）午前 10 時 45 分～11 時 35 分（3 校時）
場 所 北上市立飯豊中学校 図書室
実施団体 北上市立飯豊中学校 3 学年 107 名



公民の授業の一環として、3 学年の生徒全員が、自らの住む北上市に対し、市民として提案・要望等の意見をまとめました。当日は、9 名の代表生徒が内容を発表し、それに対して副市長が回答し、最後に市から感謝状を贈呈しました。

授業のようす ※要約



生徒：電車・バスの本数を多くしてほしいです

私の家では、食材や日用品などの買い物は祖母が行っています。夏の期間は自転車で行けますが、冬や天気の良い日は大変です。また、私自身も冬の期間の移動は大変なので、電車についても一緒に考えてほしいです。



副市長：昔は市内をたくさんの路線バスが走っていました。本数が減ってしまったのは、人々の移動手段が変化し、公共交通が利用されなくなってしまったからです。ただし、赤字でも、必ず公共交通機関を必要とする人はいるので、市でもコミュニティバスをルートや日数を見極めながら運行したり、地域でも乗り合いタクシー事業を行ったりと、様々な工夫をしています。

必ずしも「電車」「バス」といった方法に限らず、状況に応じたサイズの移動手段を確保するという考え方もできます。今日に限らず、市政座談会など、地域で意見を出す場もありますので、いいアイデアが思いついたらぜひ教えてください。



生徒：全校生徒の少ない学校を合併してはどうでしょうか

北上市内にも、全校生徒が 100 人を下回る学校がいくつかあると聞きました。合併をすれば、設備の維持費用や人件費を減らせ、予算に余裕ができると思います。また、生徒の少ない学校は、学校行事や部活動などにおいて不便な点があると他校の友人から聞きました。合併するということは、その学校の受け継いできた伝統を途絶えさせてしまうということですが、それと同時に新しい学校で新たな伝統を生むことにもつながっていくと思います。



副市長：市としては、維持費用や人件費よりも、まず「子どもたちがよく学べる環境を作る」ことが第一と考えています。指摘のとおり、子どもの数が減っていて、複式学級になったり、学校行事や部活動も難しかったり、実際に学校を合併しようという話し合いが複数の地域で進められています。中でも、最も早く結論が出て、合併が進んだのはこの飯豊地区です。成田小学校から飯豊小学校への合併を経験した生徒もいるのではないのでしょうか。

現在、北上川の東側の地域で小学校を合併する準備を進めています。小学校が地域にとって大切な場所と捉えている方も多く、合併に合意できないという地域もあるので、これからも長い話し合いが必要だと思っています。



生徒：中学生までの医療費の免除をしてほしいです

市町村によっては、中学生までの医療費が全額免除というところがあるようです。北上市は、そうではありません。住んでいる市町村によって違うというのはどうなのでしょう。

また、少子高齢化が進む中では、子どもを増やすことが第一だと思います。「医療費がかからない」ということは、この問題の解決にもつながるのではないのでしょうか。



副市長：子どもの医療費助成については、様々な場で要望・提言をいただいています。現在、北上市では一部負担金や所得制限はありますが、高校生まで無料になっています。ただし、指摘のとおり、他の自治体では一部負担金や所得制限などが無いところもあり、住む地域によって違いがあるのは事実です。北上市でも、子どもの医療費についてはどの地域に住んでいても同じ条件になるように、国に要望しています。



生徒：看護を学べる学校が必要だと思います

私は将来、看護師になりたいと思っています。北上市には、中部病院という大きな病院がありますが、看護や医療の学習ができる学校がありません。医療を発展させていくことでより良い生活ができるのではないのでしょうか。



副市長：看護というのは、これからも機械には置き換わらない素晴らしい仕事だと思います。看護を学べる高等専門教育機関（大学）は、県内には盛岡にしかありません。北上市にもぜひ欲しいところですが、実際に学校を作るには億単位の大きな予算が必要で、建ててからも維持に多額の予算を投じる必要があります。北上市が単独で持つのではなく、近隣の自治体と組んだり、民間と組んだり、様々な方法が考えられますので、これからも研究していきたいと考えています。



生徒：飯豊・村崎野の治安が悪くなっているように感じます

北上に大きな工場が出来て、アパートも増え、他県や他国から働きに来る人も増えました。小学校から9年間、ほぼ同じ通学路を通っていますが、落ちていたゴミが何十倍にも増えました。近所で泥棒が入るという事件もあり、怖い思いをしました。治安を再生してほしいです。



副市長：大きな工場が来て、北上市では、人やモノ、お金が大きく動いています。これは、北上市が元気なまちであるということですが、必ずしも良いことだけではありません。岩手県内の犯罪率をみると、盛岡市に次いで多いのは北上市です。にぎやかであるが故に、悪いことをしても気づかれないだろうという心理が働くようです。犯罪が起きにくい・悪いことが起きにくい地域をつくるのは行政や警察だけでできることはありません。工業団地に立地している企業さんも、社内で呼びかけをしてくれていますし、地域の雰囲気づくりがとても大切です。ぜひ地域でどんなことが出来るかを考えてみてください。



生徒：さくらホールをオペラハウスに改築してはどうでしょうか

今のさくらホールは小さくて、フルオーケストラのコンサートやオペラの上演はできません。オペラハウスに改築すれば、首都圏でしか行われなかったような公演が可能になり、北上市へ多くの人を訪れるようになるのではないのでしょうか。



副市長：実は、さくらホールで、前方の座席を外してオーケストラを配置し、オペラを上演したことはあります。現在もそういった演目が出来ないか、全国ツアーに組み入れてもらえないか打診はしていますが、どうしても人口規模などの要件から、さくらホールで上演するのは難しいようです。ただ、北上市近辺に工場などの立地がある企業が主催するコンサートが主要都市などで開催されていますので、そういったつながりから誘致できるのではないかと考えています。



生徒：サトウハチローの関係者・関係書籍の企画展をしてはどうでしょうか

北上市にはサトウハチロー記念館があり、文学への取り組みが盛んです。より多くの方の興味を引くために、サトウハチローが参加した同人誌やそれに参加した宮沢賢治・草野心平などに触れるといった企画展を行ってはどうでしょうか。



副市長：北上市は「工業のまち」というイメージが強いかもしれませんが、市の中心部にある「日本現代詩歌文学館」は、全国でも貴重な「詩歌」を専門に取り扱う施設で、133万点の作品を所蔵しています。様々な各種イベントを実施したり、広報に中高生の俳句を掲載したりしているほか、詩歌文学館賞には著名人が参加しています。北上でも文化に力を入れているということはPRしていかなく

てはいけないと思っていますし、提案いただいた「文学」については少し弱いところもあると思うので、併せて盛り立てていければいいと思います。



生徒：ゴミ袋を指定のものではなく自由にしてはどうか

私は以前、他の市に住んでいました。そこでは、ゴミ袋としてレジ袋を利用しても良かったのですが、北上市では有料の指定袋を買わなくてははいけません。地域によって異なるのは公正でないのではないですか。

また、ゴミ袋を作成するときに発生する二酸化炭素についても考慮すると、すでに流通しているレジ袋を使った方が効率も良いのではないのでしょうか。



副市長：県内には「推奨ゴミ袋」を導入している自治体はありますが、「指定ゴミ袋」としているのは北上市だけです。お家の人が「高い」と言っているのを聞いたことがあるかもしれません。

北上市では、ゴミを処分するのに年間約 6 億円かかっています。その費用の一部として、市民の皆さんに指定袋を購入いただいた金額(約 1.6 億円)を当てています。もしゴミ袋を自由化すると、この 1.6 億円を市の予算から捻出する必要があり、その分、道路を作ったり、医療費を補助したりといった他の事業が出来なくなります。

また、市の予算から捻出する(税金を使う)ということは、市民の皆さんは自分の出したゴミの量に関わらず、均一に負担をするということになります。現在はゴミの量に応じて袋を買わなくてははいけないので、努力して少なくした人は、ゴミ袋の料金が安く済みます。こういう「平等」の考え方もあると知ってほしいと思います。さらに、ゴミ袋を有料化したことで、北上市のゴミの排出量は大きく減っています。これも大きな効果の一つと考えています。



生徒：工業系の専門学校を建てて、村崎野駅周辺を活性化させてほしいです

村崎野には黒沢尻工業高校もあるので、それに関連して工業系の専門学校を建てれば、学生の往来が増え、飲食店などが出来て村崎野駅前が活性化すると思います。学生が多いまち是全国的にみても活性化しているように思いますし、将来的には工業だけでなく、様々な学校を建てれば、人口も増えるのではないのでしょうか。



副市長：今年から新しい工場が稼働し始めることで、車通勤では賄えないほどの通勤者が増えると想定されています。移動手段として鉄道が大変重要になりますので、近いうちに村崎野駅周辺は今とは状況が変わると思います。

また、情報系の専門学校については、すでに北上市にもありますが、黒沢尻工業高校との連携、立地企業との連携を視野に、先述の看護系の高等教育機関と同様に研究していきたいと思っています。

生徒からのお礼のことは

今日はお忙しい中、お出でいただき、ありがとうございました。普段、なかなか考えることがありませんでしたが、今日は深く自分たちの住む北上市について考えることが出来ました。

若い世代の意見がこれからの北上市の活性化につながればいいなと思います。



副市長からのメッセージ

今日はありがとうございました。皆さんの意見のレベルが、本当に高いと感じました。今日の内容は、市議会や市職員の中でも出る話題で、中学生でも大人レベルの気づきがあるのだと感じました。

これからのまちを作っていくのは皆さんです。「人口減少時代」という言葉は聞いたことがあると思います。ある研究グループでは、2040年には、全国の市町村の半分以上が維持できない（消滅する）と言われています。その時に皆さんは35歳、まさに中心になっていく年代です。普段からしっかりと、暮らしの中で考えたり、話し合ったりすることが大切です。今日をきっかけに、友人や家族とそのような機会を持っていただきたいと思います。